

収集雑穀（豆）の特性調査（25）

英インゲンの実取り収穫品種

誌名	日本作物学会東北支部会報
ISSN	09117067
著者名	大野,康雄
発行元	日本作物学会東北支部
巻/号	52号
巻号補足	
掲載ページ	p. 51-52
発行年月	2009年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



収集雑穀（豆）の特性調査 第25報 莢インゲンの実取り収穫品種

大野康雄
(株)佐藤政行種苗育種研究所)

Study on the Characteristics of Collected Miscellaneous Crop
25. Study on the Variety about Seed Production of French Beens

Yasuo OHNO
(Institute fo Breeding of Sato Masayuki Seed)

子実収穫用の「手無しインゲン」と「つる有りインゲン」の特性検討結果を報告する.

材料および方法

試験Ⅰ 手無しインゲン子実用品種の生育収量調査

(1982)

1. 材 料 本金時菜豆他 2 品種
2. 方 法
 - 1) 試験場所 旧岩手農試県北分場 (二戸郡軽米町)
 - 2) 播 種 期 6 月10日
 - 3) 栽 培 法 畦巾60cm・株間30cm (5550株/10a)
 - 4) 一区面積 3.6㎡
 - 5) 施肥量 (kg/10a) N:10, P₂O₅:20, K₂O:10

試験Ⅱ 手有りインゲン子実用品種の生育収量調査

(2005)

1. 材 料 穂高菜豆他 5 品種
2. 方 法
 - 1) 試験場所 (株)佐藤政行種苗育種研究所農場 (紫波郡矢幅町)
 - 2) 播 種 期 6 月 8 日
 - 3) 栽 培 法 畦巾1.25m×株間1.5×条 2 (ネット使用)
 - 4) 一区面積 3.4㎡
 - 5) 施肥量 (kg/10a) N:6 P₂O₅:20 K₂O:6

試 験 結 果

試験Ⅰ 手無しインゲン子実用品種の生育収量調査

(1982)

1. インゲンの生育ステージ (第 1 表)

開花期は各品種とも 7 月中旬で、茎長は34~53cm, 株当たり分枝は5.4~8.8本, ㎡当たり莢数は本金時 143莢, 北海金時140莢, 大正金時は172莢と多い.

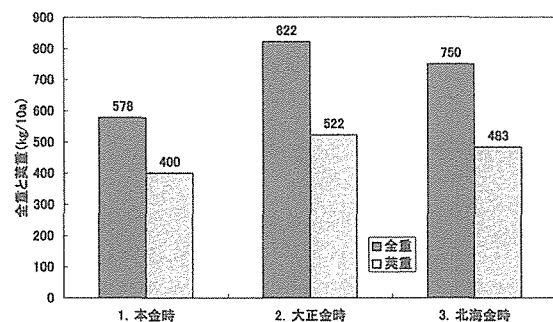
第 1 表 手無しインゲンの生育ステージ

品 種	開花期 (月・日)	主茎長 (cm)	成熟期 (月・日)	莢 数 (莢/㎡)
1.本 金 時	7.19	42	9.8	143
2.大正金時	7.18	34	9.6	172
3.北海金時	7.16	53	9.6	140

* 1982, 旧岩手農試県北分場 (二戸郡軽米町)

2. 手無しインゲンの全重と莢重 (第 1 図)

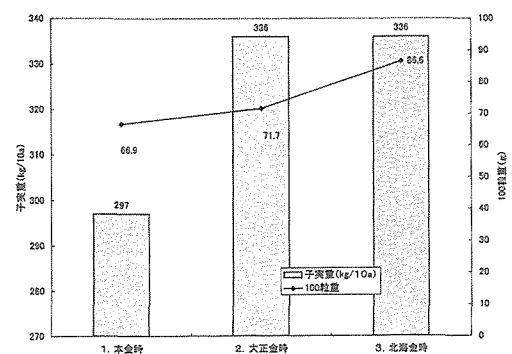
10 a 当たり全重と莢重は大正金時が多い.



第1図 手無しインゲンの全重と莢重

3. 手無しインゲンの子実重と100粒重 (第 2 図)

大正金時は北海金時に比べ莢数は多いが100粒重は軽い. 北海金時は莢数は少ないが100粒は重い. 収量は大正金時, 北海金時も同量であった.



第2図 手無しインゲンの子実重と100粒重

第2表 つる有りインゲンの生育ステージと特性調査

品 種	胚軸 の色 (月・日)	開 花 の 色 (月・日)	成 熟 期 の 形	子 実 の 色	へ そ の 色	種 の 色	皮 の 色
1.穂 高 菜 豆	薄緑	7.19	淡い桃	10.07	扁平	白目	薄茶に濃茶の渦
2.つる有り金時	緑	7.23	淡い桃	10.18	卵	白目	濃紫色
3.ア ル プ ス	薄紫	7.19	淡い桃	10.07	丸	薄茶目	濃紅色
4.あきしま捧げ	緑	8.01	白に薄桃	10.30	楕円	白目	薄褐に濃紫まだら
5.虎 豆	緑	8.03	白に薄紫	10.25	楕円	薄茶目	薄褐に茶の虎模様
6.いちよう豆	緑	8.25	白	10.30	卵	白目	白色

* 2005, (株)佐藤政行種育苗種研究所農場(紫波郡矢幅町)

試験Ⅱ 手有りインゲン子実用品種の生育収量調査

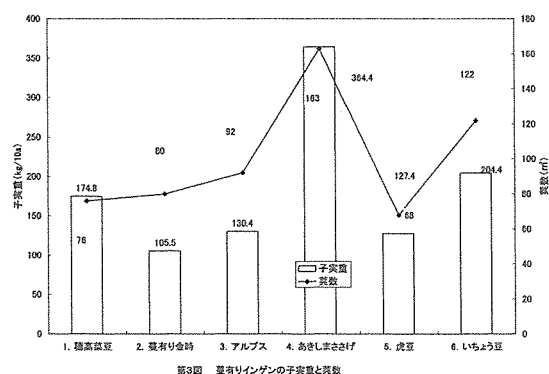
(2005)

1. 手有りインゲンの生育と特性調査(第2表)

開花始は7月中旬から8月下旬まで品種間で差があり、開花の色は桃色系が多かった。成熟期は10月上旬から下旬までであった。

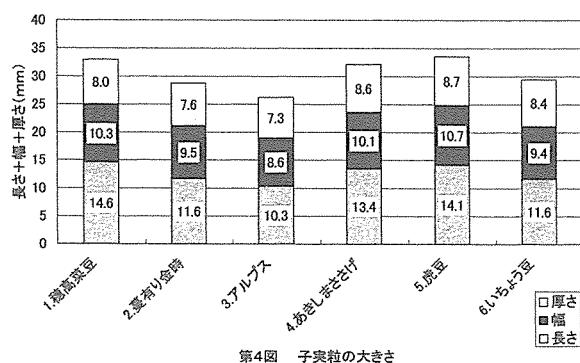
2. 手有りインゲンの子実重と莢数(第3図)

あきしまさげ(霜降り系)が莢数多く、子実重也多収である。次いで、いちよう豆、穂高菜豆であった。



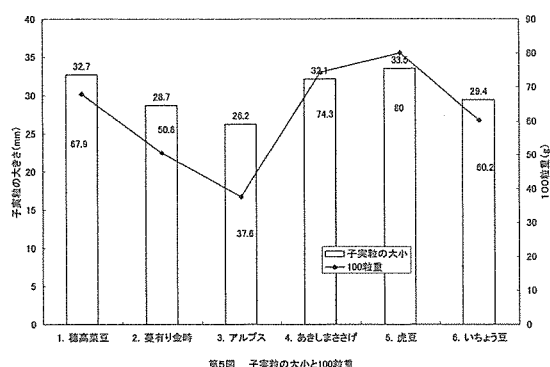
3. 子実粒の大きさ(第4図)

子実粒の大きさ(長さ+幅+厚さ)虎豆、穂高菜豆、あきしまさげが大きく、品種間に大差はない。次いで、いちよう豆、つる有り菜豆でアルプスが最小であった。



4. 子実粒の大小と100粒重(第5図)

虎豆、あきしまさげ、穂高菜豆が大きく、子実粒が大きいと100粒数は重い傾向である。



考 察

1. 手無しインゲンでは、大正金時は莢数多く、北海金時は100粒数が重い。子実重は大正金時、北海金時も10a当たり336kgで、同量であった。
2. つる有りインゲンは莢数の多い品種は10a当たり子実重也多収で100粒数も重い傾向がある。
3. 1粒当たりの長さが長粒の品種は幅と厚さも広い傾向がある。
4. 多収品種ではあきしまさげが㎡当たり莢数が364莢で多く、10a当たり子実重は163kgであった。次いで、いちよう豆、穂高菜豆であった。

以上、子実収穫を目的とする手無しインゲン、手有りインゲンの特性について報告した。

今後は、手有りインゲンに比較して手数の少なく、栽培が容易な手無しインゲンが増えると思う。

しかし、輸入産品との競合、栽培者の高齢化など難しい面もある。

引用文献

- 大野康雄ら。1982。旧岩手県立農業試験場県北分場試験成績概要。
- 大野康雄ら。2005。㈱佐藤政行種育苗種研究所試験成績概要。